2023 年度点検・評価シート

・**評価の視点**【基礎要件●】は法令要件、その他基礎的要件の充足状況を判断する指針
【評価要件○】は基礎要件以外で、大学基準協会が大学基準に照らし定めた指針

・評価の視点に“※”が付されている場合は、大学基礎データ、基礎要件確認シート及び別途収集する根拠資料により、点検・評価し、適切性を判断してください。

・★のある欄は、必須記述欄です。ただし、該当なしと判断した場合は「なし」と記入してください。

・◆のある欄は、各点検・評価項目の内容について、問題点を記入してください。（ない場合は「なし」と記入）

Ⅰ【現状】**原則 2023 年 5 月 1 日現在の状況で回答してください。**

対象部局	41 中国言語文化学専攻	責任者	安藤好恵	
基準 4	教育課程・学習成果		自己評価	B

★基準 4 の自己評価の理由を簡潔に解説してください。

≪回答≫社会的、職業的自立を図るために必要な能力の育成として実施しているキャリア教育の組織的な取り組みの充実が必要であること、及び学習成果の測定結果を活用するための指針が設けられておらず、今後の課題として残されているため B 評価とした。

点検・評価項目 (1)	4-1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

★<学位授与方針>

中国言語文化学専攻博士課程前期課程は、建学の精神に基づく教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、専門分野に関する次のような高度な能力を身につけ、修士論文が審査のうえ合格と認められた学生に修士（中国言語文化学）の学位を授与する。

1．知識・技能

（1）中国語学・中国語教育学・中国言語文化学に関する高い専門知識と研究能力を身につけている。

（2）国際社会に貢献できる高度なコミュニケーション能力と応用能力を有している。

2．思考力・判断力・表現力

（1）分野において、専門的な職業に従事するために必要な思考力と判断力を備えている。

（2）専門知識を駆使して、資料・情報の収集分析に踏まえ、結論を導き出す表現能力を修得し、独自に問題解決できる。

3．主体的に学び続ける態度

（1）旺盛な学習意欲を保ちながら新しい知識を追い求め続ける態度に基づき、国際社会で対応できる高度な専門性を自主的に構築できる。

中国言語文化学専攻博士課程後期課程は、建学の精神に基づく教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、専門分野に関する次のような高度な能力を身につけ、博士論文が審査のうえ合格と認められた学生に博士（中国言語文化学）の学位を授与する。

1．知識・技能

（1）中国語学・中国語教育学・中国言語文化学の三分野もしくは、複数の分野にまたがって広範かつ高度な専門知識と必要な関連技能を修得している。

2．思考力・判断力・表現力

（1）研究成果を学術論文としてまとめ、指導教授の助言を受けながら出来るだけ自力で遂行する資料収集・材料分析・学術判断・データ整理・文章構築などの総合能力を身につけている。

（2）高度な異文化理解、知識摂取、学術連携、実務担当など行動力と発信力を有している。

3．主体的に学び続ける態度

（1）幅広い専門知識と創造的な学術思考の構築を目指し、時代の発展に順応できる人材として産業・教育・研究の諸分野の今日的課題を主体的に学び続ける態度を常に保っている。

変更	有( ) 無(○)

評価の視点 1 【基礎要件●】	上記の方針は、修得すべき知識、技能、態度等の学修成果が明示され授与する学位にふさわしい内容となっている。
評価の視点 2※ 【基礎要件●】	上記の方針の公表は、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト（大東文化大学の基本方針）、基礎要件確認シート 7
点検・評価項目 (2)	4-2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

◆学位授与方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。

≪回答≫
なし

★<教育課程の編成・実施方針> 中国言語文化学専攻博士課程前期課程は、修了認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。 １．教育内容 （１）専攻科目は、中国語学・中国語教育学・中国言語文化学の三分野をまたがる「特殊研究」と「演習」を通じて、専門知識と研究能力を修得する。 （２）実習科目は、日中両語による異文化コミュニケーションの基礎的な技能や幅広い運用能力を身につける。 （３）共通科目は、語学研究に必須な学際知識と言語情報処理の必要な技術を学ぶ。 ２．教育方法 （１）中国語学・中国語教育学・中国言語文化学の各分野が研究科目と演習科目を有効に内容配置しながらゼミ式で専門知識の学習と研究論文の作成を推し進め、指導教授による指導を徹底させる。 （２）履修者に学会発表や論文投稿を積極的に推奨する上、課題設定、資料収集、原稿作成など実践能力の向上を重視する。 ３．評価方法 （１）修了要件である単位取得数を満たしている。 （２）修士論文は審査委員会（主査１名、副査２名）による口頭試問を経て、評価する。 中国言語文化学専攻博士課程後期課程は、修了認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。 １．教育内容 （１）専攻科目は、中国語学・中国語教育学・中国言語文化学の三分野をまたがる「特論」と「特別演習」を通じて、高度な専門知識と研究能力を修得する。 ２．教育方法 （１）各分野が特論科目と特別演習科目を有効に内容配置しながら専門知識の学習と博士論文の作成を推し進め、指導教授による論文指導を全面かつ綿密に行われている。 （２）学会発表や論文投稿が履修要件として要求され、課題設定、資料収集、原稿作成など実践能力の向上を図っている。 ３．評価方法 （１）修了要件である単位取得数を満たしている。 （２）発表論文の本数をクリアしている。 （３）博士論文は審査委員会（主査１名、副査３名）による口頭試問を経て、評価する。	変更	有( ) 無(○)

評価の視点１ **【基礎要件●】**	上記の方針は、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態など、教育についての基本的な考え方を明示している。
評価の視点２ **【基礎要件●】**	上記の方針は、学位授与方針に整合している。
評価の視点３※ **【基礎要件●】**	上記の方針を公表しており、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト（大東文化大学の基本方針）、基礎要件確認シート７

★※DP と CP の連関について（DP と CP の各項目の番号を矢印で紐づけてください。）

博士課程前期課程
ＤＰ１．（１）（２）→ＣＰ１．（１）（２）（３）
ＤＰ２．（１）（２）→ＣＰ１．（１）（２）
ＤＰ３．（１）→ＣＰ１．（１）（２）
博士課程後期課程
ＤＰ１．（１）→ＣＰ１．（１）
ＤＰ２．（１）（２）→ＣＰ１．（１）（２）
ＤＰ３．（１）→ＣＰ１．（１）（２）（３）

★項目 (2) 4-2DP１から DP３について、それぞれの内容がどのように CP の内容に反映されているのか（あるいは教育課程のどこで具現化されるのか)、その連関について説明してください。
以下の事例を参考に記述してください。※事例は過去のものです。なおここでは DP１のみ抜粋ですが続きがあります。
・ＤＰ「１．知識・技能」（１）に明示した、「日本の文学と言語・文化に関する基本的な知識」「専門的な知見」と、ＤＰ「１．知識・技能」（２）の「文献や資料を的確に読解する」については、ＣＰ「１．教育内容」（１）で、『「日本文学史概説」「日本語学概説」などで体系的・通史的な知識や素養を身につけ』とされ、ＣＰ「１．教育内容」（２）で『「日本文学講読」「日本語学講読」や各分野の「特殊講義」などで、特定の主題に関する専門的な知識を身につける。』と明示されている。

≪回答≫
前期課程においては、DP１.(1) に明示した「中国語学・中国語教育学・中国言語文化学に関する高い専門知識と研究能力」、及び(2)「国際社会に貢献できる高度なコミュニケーション能力と応用能力」については、CP1.教育内容(1)、(2)として『「中国言語文化学特殊研究Ⅰ～ⅣAB」、「中国言語文化学演習Ⅰ～ⅣABCD」で中国語学・中国語教育学・中国言語文化学の三分野にまたがる「特殊研究」と「演習」を通じて、専門知識と研究能力を修得する』とされ、CP1.教育内容(3)で『「語学研究に必須な学際知識と言語情報処理の必要な技術」は実習科目「中国語コミュニケーション実習Ⅰ～ⅣAB」及び本研究科共通科目により修得』される。 DP2.(1)については『「専門分野において、専門的な職業に従事するたに必要な思考力と判断力を備える」については CP1.教育内容 (1)、及び(2)『「日中両語による異文化コミュニケーションの基礎的な技能や幅広い運用能力」を身に付けるために専門科目「中国 言語文化学演習Ⅰ～ⅣABCD」、実習科目「中国語コミュニケーション実習Ⅰ～ⅣAB」を配置する』ことが明示されている。 DP3.(1)の「旺盛な学習意欲を保ちながら新しい知識を追い求め続ける態度に基づき、国際社会における多様性を尊重し、多文化共 生を意識しつつ多角的な視点から課題の探索と問題の解決に取り組むことを通じて、高度な専門性を自主的に構築する」態度は「中国言語文化学特殊研究Ⅰ～ⅣAB」を配置することが明示されている。
後期課程においては、DP1.(1)「中国語学・中国語教育学・中国言語文化学の三分野もしくは、複数の分野にまたがって広範かつ高度な専門知識と必要な関連技術を修得する」については CP1.(1)『「中国語学・中国語教育学・中国言語文化学の三分野にまたがる「特論」と「特別演習」を通じて、高度な専門知識と研究能力を修得する」ための「中国文化学特論Ⅰ～ⅤAB」、「中国言語文化学特別演習Ⅰ～ⅤABCDEF」を配置する』ことが明示されている。 DP2.(1)『「研究成果を学術論文としてまとめ、指導教授の助言を受けながら出来るだけ 自力で遂行する資料収集・材料分析・学術 判断・データ整理・文章構築などの総合能力を身につける」、(2)「高度な異文化理解、知識摂取、学術連携、実務担当など行動力と発信力を有」することが出来るよう「中国言語文化学特論Ⅰ～ⅤAB」、「中国言語文化学特別演習Ⅰ～ⅤABCDEF」を配置する』ことが明示されている。DP3（1）「幅広い専門知識と創造的な学術思考の構築を目指し、国際社会における多様性を尊重し、多角的な視点から問題の解決と多文化共生の実現に取り組むことを通じて、時代の発展に順応できる人材として産業・教育・研究の諸分野の今日的課題を主体的に学び続ける態度を常に保っている。」については「中国言語文化学特論Ⅰ～ⅤAB」、「中国言語文化学特別演習Ⅰ～ⅤABCDEF」を配置する』ことが明示されている。

★教育課程の編成・実施方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。

≪回答≫
なし

点検・評価項目 (3)	4-3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点１※	教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性を図っている。根拠資料→A1-2＊大学院学則、A4-43Web サイト シラバス

評価の視点２※	学習の順次性に配慮した各授業科目の年次・学期配当をしている。根拠資料→B4-68Web サイト カリキュラムツリー
評価の視点３※	専門分野の学問体系を考慮した教育課程を編成している。根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ
評価の視点４※	学習成果を修得させるために適切な授業期間を設定している。 根拠資料→A1-2＊大学院学則
評価の視点５※	単位制度の趣旨に沿った単位の設定をしている。根拠資料→A1-2＊大学院学則、基礎要件確認シート９、10
評価の視点６※	教育課程を編成する措置として、個々の授業科目の内容及び方法は適切に設定されている。 根拠資料→A4-13Web サイト 科目ナンバリング、A4-43Web サイト シラバス
評価の視点７※	編成方針に基づき、授業科目を必修、選択等位置づけており履修の手引きに掲載している。 根拠資料→B4-19 研究科 科目編成表（全研究科専攻、コースワーク、リサーチワークの表示が必要）
評価の視点８※	コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育課程を設置している。根拠資料→B4-19 研究科科目編成表（全研究科専攻、コースワーク、リサーチワークの表示が必要）
評価の視点９※	専攻の教育研究上の目的や課程修了時の学修成果と、各授業科目との関係を明確にしている。 根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ
評価の視点１０	学生の社会的、職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を実施している。

★項目 (3) 4-3①社会的、職業的自立を図るために必要な能力の育成として実施しているキャリア教育について、根拠資料（該当するシラバス、教育プログラムの場合はその制度が分かる資料など）を用いて回答してください。

≪回答≫ なし	≪根拠資料≫ 41-C4-1：なし

★項目 (3) 4-3②当該部局のカリキュラムの編成、授業科目の配置の特性について解説してください。

≪回答≫

博士前期課程、後期課程を通じて中国語学、中国語教育学、中国言語文化学の 3 つの領域が設定されており、前期課程の研究テーマを博士課程においても継続し、発展させることのできる科目編成となっている。前期課程においては、「専攻科目」では指導教員以外の「演習」を履修することが必須である。「実習科目」では中国語と日本語の通訳、翻訳スキルを修得する。「共通科目」では言語、教育、文化など言語学分野におけるリベラルアーツ科目が設定されている。これらの「専攻科目」「実習科目」「共通科目」の組み合わせにより、専攻する領域にとどまらず、広く外国語学研究に必要な知識を修得することが可能な科目配置となっている。後期課程においては、「演習」および「特論」を履修することにより、それぞれの専門分野における高度な専門知識と研究能力を修得するためのカリキュラム編成となっている。

◆授業科目の開設や、教育課程の体系的な編成について問題点があれば記述してください。

≪回答≫

なし

点検・評価項目 (4)	**4-4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。**
評価の視点１※	シラバスの内容（到達目標・学修成果の指標・授業内容及び方法・授業計画・授業準備のための指示・成績評価方法及び基準等の明示）に基づいた授業を実施し、整合性が図れている。根拠資料→A4-43Web サイト シラバス
評価の視点２※	シラバスの記載内容の第三者チェックの実施結果を教授会で報告、検証している。 根拠資料→B4-40 シラバスチェック実施報告、B4-42 シラバスチェック体制
評価の視点３	学習の進捗と学生の理解度の確認

★項目 (4) 4-4①授業を行ううえで、学習の進捗と受講する学生の理解度の確認をするために、当該部局としてどのような措置を講じているか、回答してください。

≪回答≫ 前期課程においては初年度は 11 月に、2 年次には 7 月に修士論文中間発表会を実施している。後期課程においては初年度 11 月に、 二年次以降は専攻・中国語学科共催のシンポジウム及び博士論文中間発表会を実施することで受講する学生の理解度の確認を行っている。	≪根拠資料≫ 41-C4-2：学術シンポジウム開催報告

評価の視点４※	履修登録に関するガイダンスやオリエンテーションなど適切な履修指導を実施している（オンラインも含む）。根拠資料→B4-69 履修登録に関するガイダンスやオリエンテーション実施要項,（オンラインの場合は Web サイトも可→別紙の備考に URL 記入）

評価の視点５※	授業外学習に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適当な学習課題の提示 根拠資料→A4-43Web サイト シラバス
★項目 (4) 4-4②オンライン教育も含めて、授業外学習に資するフィードバックの方法や、量的・質的に適当な学習課題を提示しているかを確認する方法などについて根拠資料を用いて回答してください。	
≪回答≫ 毎年度実施しているシラバスチェックにおいて、課題のフィードバックの方法や、時間外学習の内容などを確認している。	≪根拠資料≫ **41-C4-3:外国語学研究科 2022 年度シラバスチェック体制**
評価の視点６※	研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュールなど）をあらかじめ学生に明示し、それに基づく研究指導を実施している。根拠資料→B4-73 研究科研究指導計画、基礎要件確認シート 13
◆学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための措置について問題点があれば記述してください。	
≪回答≫ 特になし	
点検・評価項目 (5)	**4-5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。**
評価の視点１※ **【基礎要件●】**	成績評価及び単位認定を適切に行うための措置として以下を行っている。 ・単位制度の趣旨に基づく単位認定 ・既修得単位認定等の適切な認定 ・成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・成績評価及び単位認定に関わる全学的ルールの設定その他全学内部質保証推進組織の関わり 根拠資料→A1-2＊大学院学則、基礎要件確認シート 10,12,13、B4-74 オンライン教育に鑑み成績評価の公正性、公平性を担保するための措置を示す資料
評価の視点２※ **【基礎要件●】**	学位授与を適切に行うための措置として以下を行っている。 ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表【修士・博士】 ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示 ・適切な学位授与 ・学位授与に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり 根拠資料→A1-2＊大学院学則、A4-36＊学位規則、基礎要件確認シート 10,12,13
◆成績評価、単位認定及び学位授与について問題点があれば記述してください。	
≪回答≫ 特になし	
点検・評価項目 (6)	**4-6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。**
評価の視点１ **【評価要件○】**	学位課程の分野の特性に応じた学修成果を測定するための指標（特に専門的な職業との関連性が強いものにあっては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。）を設定している。 ※成果指標は定量的指標、定性的指標を複数組み合わせて設定することが望ましい。 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果
評価の視点２ **【評価要件○】**	学生の学修成果の測定方法を開発している。 ≪学修成果の測定方法例≫ ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学修成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果
★項目 (6) 4-6①全学部・学科、研究科・専攻で共通設定している「DP に示す学習成果（能力や資質）」「学生アンケートや調査」以外で、部局独自として設定している学習成果の測定をするための指標と、その測定方法をすべて記述してください。	
≪回答≫ ・修士・博士論文やそれにあたるものの成績：論文提出者の 8 割以上が A 評価以上で あることを目標とする	≪根拠資料≫ **41-C4-4：B4-70.学習成果の測定結果と活用（研究科）**

・学会発表率(学内学会を含む)：後期課程については在籍中年１回以上を 目標とする ・論文発表率(学内雑誌を含む)：後期課程については在籍中年１本以上を 目標とする	
★項目 (6) 4-6②学習成果を測定した結果（共通設定と、独自設定含む）について代表的事例を回答してください。また、全ての測定結果を根拠資料として提出してください。	
≪回答≫ ・修士・博士論文やそれにあたるものの成績：論文提出者の８割以上がＡ評価以上で あることを目標とする→2022 年度修了生においては、修了者は１名でありＡ評価であった。 　審査の過程においては、DP１.(1) 「中国語学・中国語教育学・中国言語文化学に関する高い専門知識と研究能力」(2)「国際社会に貢献できる高度なコミュニケーション能力と応用能力」DP2.(1)『「専門分野において、専門的な職業に従事するたに必要な思考力と判断力を備える」(2) 専門知識を駆使して、資料・情報の収集分析に基づき、結論を導き出す表現能力を修得し、独自に問題解決できる。DP3.(1)「旺盛な学習意欲を保ちながら新しい知識を追い求め続ける態度に基づき、国際社会における多様性を尊重し、多文化共 生を意識しつつ多角的な視点から課題の探索と問題の解決に取り組むことを通じて、高度な専門性を自主的に構築する」および「修士学位論文の評価基準」1.研究テーマの明確性：研究テーマが明確に示され、研究目的にかかわる意義が的確に述べられている 2.研究方法の妥当性：研究の目的に沿って、効果的な研究方法が用いられている。3.先行研究・資料の取扱いの適切性：当該分野の先行研究の理解・批判に基づき、資料を広く収集し典型的事例を発見、その特質を開示している。4.論旨の明確性・一貫性：論旨が明確かつ一貫しており、新規にして発展性のある結論が導かれている。5.構成・表現の適切性：学術論文として組織的に構成されており、的確な表現が使用されている。6.学術的・社会的な貢献：国際的な学術水準から見て、部分的にせよ独自のものを含み、社会的貢献を目指すものである。7.倫理性：学内の倫理規程、関連する学会・団体の倫理基準を遵守している。が確認された。 ・学会発表率(学内学会を含む)：後期課程については在籍中年１回以上を 目標とする→博士学位取得者は３名であり、審査報告書により学会発表については、１人は７回、もう２人は「学内外の学会で発表をした」ことが確認された。 ・論文発表率(学内雑誌を含む)：後期課程については在籍中年１本以上を 目標とする→博士学位取得者は３名であり、掲載論文は３年間でそれぞれ７本、４本、７本であった。 　審査の過程においては、DP1.(1)「中国語学・中国語教育学・中国言語文化学の三分野もしくは、複数の分野にまたがって広範かつ高度な専門知識と必要な関連技術を修得する」、DP2.(1)『「研究成果を学術論文としてまとめ、指導教授の助言を受けながら出来るだけ 自力で遂行する資料収集・材料分析・学術 判断・データ整理・文章構築などの総合能力を身につける」、(2)「高度な異文化理解、知識摂取、学術連携、実務担当など行動力と発信力を有する」、DP3 (1) 「幅広い専門知識と創造的な学術思考の構築を目指し、国際社会における多様性を尊重し、多角的な視点から問題の解決と多文化共生の実現に取り組むことを通じて、時代の発展に順応できる人材として産業・教育・研究の諸分野の今日的課題を主体的に学び続ける態度を常に保っている」および「博士学位論文の評価基準」 1.研究テーマの明確性：研究テーマが明確に示され、研究目的にかかわる意義が的確に述べられている。2.研究方法の妥当性：研究の目的に沿って、効果的な研究方法が用いられている。3.先行研究・資料の取扱いの適切性：当該分野の先行研究の理解・批判に基づき、資料を広く収集し典型的事例を発見、その特質を開示し、かつ当該分野の研究史の中に位置付け得る可能性を有している。4.論旨の明確性・一貫性：論旨が明確かつ一貫しており、新規にして発展性のある結論が導かれている。5.構成・表現の適切性：学術論文として組織的に構成されており、的確な表現が使用されている。6.学術的・社会的な貢献：国際的な学術水準および学際的観点から見て、十分な独創性や重要性があり、歴史的貢献を目指すものである。7.倫理性：学内の倫理規程、関連する学会・団体の倫理基準を遵守している。が確認された。	≪根拠資料≫ 41-C4-5： (1)2022 年度第９回外国語学研究科会議議事録要旨 資料議案４博士学位申請論文の審査報告および修了判定について (2)2022 年度第９回外国語学研究科会議議事録要旨 資料議案５修士学位申請論文の審査報告および修了判定について **(3)外国語学研究科学位論文審査の評価基準**
★学習成果の指標と測定方法に関する課題や長所などを記述してください。	
≪回答≫	

評価指標を明確にすることで、学生については論文完成へのモチベーションが高まり、発表（投稿）申込期限などの明確な目標日時が定まることで計画的に研究を進める習慣が身につくこと、学会発表やジャーナルへの投稿に際して得られるコメントにより、自身の研究についてより多角的な視点から考察することができる。教員については学生が目標とする学会やジャーナルのレベルに応じた指導をする、得られたコメントについて解説をするなどの指導を通して、より学生の研究に寄り添った指導ができるなどの利点が考えられる。

★学習成果の測定結果の分析方法に関して課題や長所などを記述してください。

≪回答≫
学習成果については学会発表、投稿論文の採択率によって把握している。発表や投稿論文についてリライトを求められたり、不採択となった場合、指導教員が学生とともに原因を考え、アドバイスを与えることにより論文の完成度を高めることができるという利点がある。

点検・評価項目(7)	4-7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組を行っているか。
評価の視点１※ 【評価要件○】	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を実施している。 ・学習成果の測定結果の適切な活用 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果、B2-51　2023 年度点検・評価シート、B2-52 会議録（または準ずるメール記録）:（開催日）2023 年度自己点検・評価について
評価の視点２ 【評価要件○】	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取組みを行っている。

★項目(7) 4-7①学習成果測定の実績と、実際の測定結果にもとづいた教育改善の取り組み状況を、具体的に回答してください。

他大学事例：
・論文やプレゼンテーションなど成果報告の機会が広がり、その開催方法も交流や競争性を取り入れた場へと展開している。
・「学生の授業に関する調査」結果に対して、授業担当者はコメントや具体的な改善策を公表している。
・英語に関する学習成果把握の取り組みとして、全学年対象の英語アチーブメントテストの結果を英語スコア管理システムにより一元的に管理し FD 部会でデータの検証を行い英語教育の改善に取り組んでいる。
・論文中間発表や論文審査基準の結果をもとに、カリキュラムとその内容、授業方法を自己点検し、特に博士論文は、助成制度を設けているため学術的水準の維持、向上に繋げている。

≪回答≫
大学院生の論文中間発表や学術シンポジウムには、大学院だけでなく学科教員も参加し、さまざまな専門をもつ教員から広くコメントを得られる機会を設けている。学生は研究成果を発表することで、自身の研究をまとめ、学会という場で質疑応答の訓練を積むとともに、得られたコメントについて指導教員と議論し、論文に反映させることで論文の完成度を高める教育的効果が期待できる。

≪根拠資料≫
41-C4-6：
(1)『中国言語文化学研究第 12 号』(2023 年 3 月 30 日発行)
(2)第 24 回学術シンポジウム実践報告(2022 年 11 月 19 日)、大学院後期院生中間発表会(2022 年 11 月 26 日)
(3)第 23 回学術シンポジウム実践報告(2022 年 7 月 24 日)、大学院後期院生中間発表会(2022 年 7 月 30 日)

項目(7) 4-7②改善・向上に向けてこれまでに取り組んだこと、現在取り組んでいることがあれば、具体的に回答してください。2019 年度以降の取り組みも含めて記述してください。

≪回答≫
論文の完成度を高めるために、院生の中間発表の義務付け、学術シンポジウムでの発表を推奨している。特に博士後期課程の学生においては、毎年一回の学会発表とジャーナルへの論文投稿を目標とし指導している。

≪根拠資料≫
41-C4-7：
(1)『中国言語文化学研究第 12 号』(2023 年 3 月 30 日発行)
(2)第 24 回学術シンポジウム実践報告(2022 年 11 月 19 日)、大学院後期院生中間発表会(2022 年 11 月 26 日)

	(3)第 23 回学術シンポジウム実践報告(2022 年 7 月 24 日)、大学院後期院生中間発表会(2022 年 7 月 30 日) (4)第 22 回学術シンポジウム実践報告、大学院後期院生中間発表会(2021 年 11 月 20 日) (5)『外国語学研究第 23 号』(2021 年 10 月 15 日発行) (6)第 21 回学術シンポジウム(2021 年 7 月 25 日)、院生中間発表会(2021 年 7 月 31 日) (7)『中国言語文化学研究第 10 号』(2021 年 3 月 30 日発行) (8)第 20 回学術シンポジウム(2020 年 11 月 21 日)、院生中間発表会(2020 年 11 月 21 日) (9)『中国言語文化学研究第 9 号』(2020 年 3 月 30 日発行) (10)第 18 回学術シンポジウム(2019 年 11 月 16 日※第 19 回学術シンポジウムはコロナのため中止)、院生中間発表会(2019 年 11 月 16 日)

Ⅱ現状を踏まえ、長所・特色として特記する事項（工夫していること）を、意図した成果（目標）を明確にして記述してください。
※注：前年度の取り組みに限らず、過去から継続している事項も含める

長所・特色	

Ⅲ今回の点検・評価の結果、明らかになった新たな問題点や課題について、今後の方針や計画を含めて記述してください。
※注：複数記述可、ただし 2023 年度事業計画としてアクションプランを策定しているものは除く

問題点・課題	

Ⅳ【改善計画（事業計画）】

カテゴリ	計画番号	B 票No. or 開始年度	改善計画（アクションプラン）	内容（改善を要すると判断した根拠）	目標の評価指標	目標値	年度計画

Ⅴ【内部質保証委員会による点検・評価】

2022 年度＜所見＞
前期課程において「文法、教育、文化」のカテゴリーを中心に、専門科目、実習科目を構成し、言語学分野におけるリベラルアーツを共通科目として構成している。後期課程においては「文法、教育、文化」のカテゴリーに特化したカリキュラムを構成し、特色を明確にしていることは評価できる。

さらに、前期課程において初年度は 11 月に、2 年次には 7 月に修士論文中間発表会を実施している。後期課程においては初年度 11 月に、二年次以降は専攻・中国語学科共催のシンポジウム及び博士論文中間発表会を実施することで受講する学生の理解度の確認を行っていることも評価できる。

一方で、社会的、職業的自立を図るために必要な能力の育成として実施しているキャリア教育が未整備であることは今後の課題である。

学修成果の測定結果の活用について、B 票を提出しない理由の中で、学位論文提出に至る課程で学習成果を標準化、数値化して GPA を活用する必要も認められない。GPA の測定結果を指標とするか否かの選択は自由であり、「学修成果を標準化」の意味が読み取れないが、評価指標は定められており学修成果の測定は行われることと理解する。

当該専攻が評価指標と定めているのは、学位授与方針（DP）に示した学習成果、学習成果の測定を目標とした学修行動調査等、論文の成績学会発表率、論文発表率である。これらの活用方法として、カリキュラムの検証、対外的な成果公開指標とするとなっているので、今後、これら測定結果を改善・向上への取り組みに活かすことが望まれる。

また、2021 年度に学習成果の評価指標を定めており、評価の指標は、学位授与方針（DP）に示した学習成果の積み上げ（能力の積算）、学習成果の測定を目標とした学修行動調査等、修士・博士論文の成績、学会発表率、論文発表率としている。活用としては、カリキュラムの検証、DP に示した学習成果との検証、学修支援内容の検討としている。これらの測定結果は今後、基準 4 の点検・評価の際の根拠資料として提出することになる。今後、測定結果を活用した改善・向上への取り組みが望まれる。

2023 年度＜所見＞

中国言語文化学専攻の学位授与方針において学習成果（知識、技能、態度等）は独自のものとして明確に HP 等に公表されていることは評価できる。専門分野の学問体系、学習の順次性についてカリキュラムツリーやカリキュラムマップを HP 等に公表されており内容も一定の適切性が確認できる。

前期課程において初年度は 11 月に、2 年次には 7 月に修士論文中間発表会を実施し、後期課程は初年度 11 月に、2 年次以降は専攻・中国語学科共催のシンポジウム及び博士論文中間発表会を実施することで受講生の理解度の確認を行っていることは評価できる。

本シート冒頭に記載があるように、社会的、職業的自立を図るために必要な能力の育成として実施しているキャリア教育の組織的な取り組みについて今後充実されることが望まれる。学生の学習成果の測定に関して，根拠資料には 5 つの指標が選定されており，なかでも修士，博士論文やそれに当たるものの成績、学会発表率，論文発表率の指標に関しては審査の過程も明確に示されており，評価できる。一方、**項目 (6) 4-6②**では全ての測定結果を提出することになっているが、アンケートの満足度に関する測定結果が根拠資料として提出されていなかったので、次年度はご提出いただきたい。

今後、貴専攻において学習成果の把握とその結果の活用について事業計画として策定し明確にされるとよいのではないか。この測定結果をどのように利用し活かしていくか検討を進められることを期待する。

◆評価の基準について

※学部、研究科等評価基準

S	大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが卓越した水準にある。
A	大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが概ね適切である。
B	大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けてさらなる努力が求められる。
C	大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けて抜本的な改善が求められる。

＜注＞「大学基準」は大学基準協会「大学評価ハンドブック」を参照のこと。
解説にある「大学は云々・・・」については、学部、研究科等の現状に置き換える。

基準 4 教育課程・学習成果

【大学基準】

大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わ

なければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

（解説）

大学は、その理念・目的を実現するために、授与する学位ごとに、修得すべき知識、技能、態度など当該学位にふさわしい学習成果を示した学位授与方針を定め、公表しなければならない。また、学位授与方針に基づき、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を示した教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。

大学は、学士課程、修士課程、博士課程及び大学院の専門職学位課程のいずれの学位課程にあっても、法令の定めに加え、自ら定める教育課程の編成・実施方針に基づいて授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しなければならない。その際、学術の動向や、グローバル化、情報活用の多様化その他の社会の変化・要請等に留意しつつ、それぞれの学位課程における教育研究上の目的や学習成果の修得のためにふさわしい授業科目を適切に開設する必要がある。また、学問の体系などを考慮するとともに、各授業科目を大学教育の一環として適切に組合せ、順次性に配慮し効果的に編成する必要がある。

大学は、教育課程の編成・実施方針に基づき、授業内外における学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じなければならない。その一環として、適切なシラバスを作成するとともに履修指導を適切に行い、また、授業や研究指導の計画に基づいて教育研究指導を行うほか、授業形態や授業内容、授業方法に工夫を凝らすなど、十分な措置を講ずることが必要である。

大学は、履修単位の認定方法に関して、いずれの学位課程においても、各授業科目の特徴や内容、授業形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿った措置を採ることが必要である。また、教育の質を保証するために、あらかじめ学生に明示した方法及び基準に則った厳格かつ適正な成績評価及び単位認定を経て、適切な責任体制及び手続によって学位授与を行わなければならない。

大学は、学位授与方針に示した知識、技能、態度等の学習成果を学生が修得したかどうかを把握し、評価することが必要である。そのために、学習成果を様々な観点から把握し評価する方法や指標を開発し、それらを適用する必要がある。

大学は、教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価し、その結果を改善・向上に結びつける必要がある。その際、把握し、評価した学生の学習成果を適切に活用することが重要である。